增補
頭書

實語教童子教

慶應新刻
誤字改正

全

彌子瑕

衛の彌子瑕ハ霊公の嬖臣なり
傳の法ふ竊ふ君乃車ハ
駕り紙ハ刖ると雖そ
彌子が母病り人報る
彌子ふ君彌ふ矯て君車
ふ乗るて海る霊公ゆて
ほれと賞そうしそのあよい
為あすれ母ハ死るの為ふ
刖罪を犯せとス或日
霊公と果園ふ往ぶ桃を
食て其きあ一箇を
ちくそ甘ハと見公に
ちくしむ霊公のあく我と
忘もそうれそ深味ふの
とそれ
しくく寡人ふそ
しと後ふ寡え
霊公ふ
独ふ及く罪と
霊公ふ

實語教

實語教

山高為貴 谷深為貴 樹ハ貴
人肥為貴 財貴為貴
富是宝財 財ハ減 而共減
智是万代財 命終時隨行

実の語教

実の語教ハ人の道
とを説る書ハ山高ハ
ちくて人ハ
うりてくれ山ふ
ふ谷ハ深
ふ人の食肥く学
文をせ人智ハ
ふ食の貴肥て人ふ
ら人ハ富ることを孫まで
富る人なれ財ハ
仁義ハ一とこ
智ハ富ると人ハ方代まで
人の主宝ハ富ることの
人のいるこ
物ハ代まのこう
流布をるこの

九曜文庫

学不倦者兄弟

金無学者財物

貪財物者才智

雖積千両

兄弟者不和

財物いつまでもあるものと
思ふ勿れ才智ある者も
ろいろせねばならぬ世なれば
財物ばかりにて才智なき人
は財物ばかりにて才智なき人
は財物ばかりにて才智なき人
は

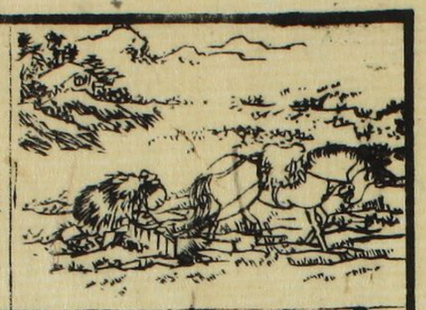
恐飢餓貧窮後學師長
徒如市人
維當讀不復
長幼隣財
為子孫給
少老極人
為牛馬者
猶如霜露
後生貧窮
門為有智人者

宛如泥中蓮父母如天地
師君如日月親族如華
夫妻猶如花父母孝順少
師君仕奉
已見況敬已來
人而智者不異於木石

人面畜類者不養飼畜生
不交三学友何遊七覚林
三宝等船難渡海苦海
八道清涼十悪人不住
無為楽放逸者遊
敬老如父母愛幼如子孝

我敬他人者他人亦敬我
己敬人親者人亦敬己親
欲達己身者先令達他人
見他人之短所自共悪
聞他人之善則自共悦
若達行見聞忘遊

好事者招禍　好惡者致音
没后之榮福　宛如蒲身軽
雖富忘貧　或招貧終貧
淫費勿忘儀　愛欲淫物
吏雖富易忘　音樂之浮才
貧易学忘　書筆之情懶



して身を保て故学文をせよ
昔唐土に第代の学者に六
法の代に学文をするを
物心の老いまして学文
をせひろうしく。
是ハ六法実法をせんじ
さと学文の法にてこそ
有り実の義を生ずる
ことなりとなり

但有食法　亦有身有命
猶忘農業　必貧窮之文
故未代学者　先学世書
是学問之始　終身勿忘失
實語教終

童子教原釋

童子教

夫貴人命
遇道路
友子尚
不問者
三宝元神

人間成
色養父
向堂拜
向聖教
人倫有
人面豊

禮師長須敬
母時則下
之和不乖
上不犯七禮
礼若朋友
礼若宛中又西道

人間成一禮師長須敬
色養父母時則下
向堂拜之和不乖
向聖教上不犯七禮
人倫有礼若朋友
人面豊礼若宛中又西道

交友不雜言

事君者遠邪
諂佞者少老物如吠犬
勇者忘身危如入火
能者多謙虛參菓
能者又會遊春鳥知遊林

食者有德密而勿洩言
人眼若鏡矣須勿犯用
東次二寸指遊行之里路
人次二寸右彼損之門
是禍之門
言毛禍種根
使如身者終身敬事

過言者細必不過言
白圭謙之庶幾廉
禍福若無門唯人自招
天地之大避自他之外
夫積善之家必有餘慶
又好惡之處必有餘殃

人間有法德必有陽報
人間多法行必有陰報
信力陰國門
禍福雲紀
會力法盡
福祿月光
不同如面
若水隨器
不挽他人
[illegible]他人馬

[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ

人を惡しゝとせんと思ふ。
師曰はく拘樓孫佛の
子をまくさ長人なるなり。
生まれてくさ長きを惡人
ぐ文を修めして德を
作るものゝ上。智德ありて
美きを人ゝ多くの富
者なる者に
貴德ら人かゝ上。富貴
なるも放逸さるの人貴人
と同じゝと又貴くるもの
に上をもて上を敬ひ
ふるの人
ふるものゝ上。師曰はく
才子に若干の者ハ
戒を犯す者ハ又才子に
惡さを生ず

神的尋長人必殺而令懲
師曰才子非長令能
生而生貴長智修成智德
貴者必富富長不必貴
雖富貴欲是爲貴人
後貴人欲是爲貴人

戒を犯すもの上。惡き
才子ある者ハ
若干ある者ハ師才子に
地獄に堕ちて
苦を受くる者ハ
師才子に
師才子に
師才子に

順逆人不違　他人如道柱
別若人不離　大海浮海
隨順逆事業　如麻中蓬直
親近善知識　如蓮華出泥
離相対法師　習成菩薩業
根性菩提花　好員於浮空

一日學一字三百六十字
一字當千金一張助他生
一日師不踏　況教手師子
師者一世父　親者一世眼
弟子去七尺　師教不踏
親育為師　宝冠載不沈

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雅利股木眠　後敬為学文
繩鈍頭不眠　東風妙後学
聚学乃燒失　宣士好稽古
積言乃燒失　体穆入意文
不知冠之流　高風入意文
不知表之流　刎完織衣

四補書之異　倪劣文耕作
腰帯文不捨　学等人者皆
宣孝好学文　文採漢学部
遠方頂学位　編禁塞振間
四恒補修論　又前与刎矣
腰帯掛文書　海儀頂新古

拓本縮寫　老老通史記
有骨格矣　伯英五歲初
果到博士位　宋史七十初
好學如師傳　智者法下劣
七歲蓋闇　愚者法高位
清素利　底　智者飛飛者

大海地獄　愚者飛飛者
小海地獄　愚者懷愛
好者中因　智者書紙樂
猶如光音天　貧者高山
須弥山南下　母懷者深海
金海海　白骨者父淫

赤肉赤毎温　赤白二締和
感父體身分　感膳四十月
胎中苦　生産外数年
養父母　育者長久膝
感膳羹　飲者門毎懐
其乳味　教解和文千山野

殺鳥獣　数十年　無隙不江海
漁獵深　資身命　為資其命
目撃遠　乗業　為嘗物之味
手動活　地獄　載其不知恵
如樹鳥　枝枝　乗流不思流
野原頻　図夢　其父

文分ゆうて手数をもぎ
るの者の本にもこれかく
その本を指すなく人の
地獄へ堕ちて苦しむ人の
こゑは聖の本の言葉
まるる品しと云ふ者の世に
図夢は如て不孝の人
云ふ所に父子打擲せ合ひ
が図夢を想て夫婦
云ふ所に大ぜい集り
わちて夢をくさぐさ
云ふ孤婦に孝ふ子の母を
怒罵々々云ふ所に其妻
云ふ孤婦を今ひし云ふ邪
巨に老母に養ひ家業
一ふ云ふ三文に時老母食を

天爾梨棗其實婦罵其母
靈蛇吸其命郭巨易母責
拍沈將金養詩七自婦
汲水以供養采蓴求行中
涂雪中掘筍孟祥欲叩冰
堅凍上頭蜀舜子養貴父

孟宗以母老冬日欲食竹筍宗入竹林中
抱竹而泣竹筍出宗得之以奉母
天氣欲雪竹筍出宗得之以奉母
王祥八歲母亡繼母朱氏不慈祥
生魚母令祥取之祥解衣卧冰
下冰自解魚出祥取之以奉母
明歌名孝子也
舜二十而有聲二十而有聲
舜八父頑母嚚弟傲舜盡孝以感天地
感舜之孝天地感
而眼盲舜耕歷山
刑樂養老母
涕泣問安眼明
嚙食成齡若董永賣身
傳孝黃香河邊
楊威念獨母
虎看哭免害顏篤養貧亡
篤母未運拯許牧自供養
拍拍作養等人者皆

楊威武時山中虎にあひ
こゝろぶくれんとして時虎ふ
向ひて我兄弟揚威武時母の
あゝんとおもひてかゝる虎逃
しゝ顔爲父の墓を築
とて土を負て運ぶ鳥獸爲
りて共ふたを運ぶを伴敬
犯れば墓を作れば相去せん
とゝ云う康朱で木を拾
さんとすれば虎空て康伏
彩ゞとて懈怠とあゝ
しなの母之世を
子孫と運躰と仏果を
二煩悩とゝ云ふ
て善提と云る仏果之
煩悩とあつて多く仏果伏

父母行孝義　仙神感懈怠
而望成就　生死命長久
是佛道樂　煩悩多不淨
遂求菩提　厭可厭六道
會者定離苦　恐可恐六道
生者必滅苦　衆命如浮雲

此一世之娑婆と云世
界を会者定離苦とゝ
あふあるて別るゝの苦
二云道は天道人道修羅
餓鬼畜生地獄とゝ
まれば滅ぶる苦必ずあ
つると云ふ怪隣とゝ
死ぬると人の命はて
とゝ云ふ老苦死苦も
人の命はあつて
續へあつて
ゝ備ハぬひの美
今も珠玉も金銀にて
身代ゝ
ゝ

物生者死苦　財寶如芭蕉
風動揺苦　衰老侵精神
金銀寶塗飾　黄金珠玉若
只一世財寶　榮花榮耀若
夫非道濟　官位祿職若
唯現世而已　後世苦之苦

露命不消經重劫奉之衆
則得遠離閻浮檀間切利摩尼殿
欲選化生之人純高義閣
悲天無量力若須達之千德
當於常所行之七寶
七寶貫纓第命月之寶月威

天孫之月支月を指さる
威も世界を動て魔王
使まかあるとうとう。純
帝はかうく純をげうろ
ちやうもにて純帝は校ふ
おうとう。布施と財宝と
布れど云ふ。報は伝来
ふる人財を惜て施ふる
拠は津とと長じて人施
いたのうく他人の施をて
ばもいたれ上と長はい
ことて施ふを助達人滅
はやし。我月氏国に於ては
とも施ふも果報はうろ
ことに於ては天人命備
ふ人の月氏。ぶ恩と慕め

被使間之使純帝授於力
被於獄来杖人命不行施
布施財宝報人最不惜財
財宝報提深義宝財
可施之財見他布施時
不生随喜心悲人施一人

功德如大海無色相諸人
得報於父子聚沙為塔人
累劫黃金布華散佛塔
妙法蓮華經一句信受力
鶴林輪王位未得聞法德
勝二乃至上頂求佛道

内典とハ佛書外典とハ儒書をいふ此書を数にたとへたるなり儒佛の書より出ることなかれ。此書を見るものなかれ。とかくこれきくものもらふべからず

中有殺罪悲下徧及六道
苦所成修道如得幼童
經因果道理皆內典外典
見者勿誹謗聞者不生矣
壽子教終

萬延二辛酉年改板

甘泉堂　江戸芝神明前
和泉屋市兵衛版